

みちよみやま

2023年夏
vol.109

特集

地域 + ホスピス ～未来はここから～

1～3 がんと共に生きる人を支える

4 愛知国際病院 ホスピスを歩く

5 在宅なんでも相談

- 持病のある母の入浴が大変
- 退院後も自宅で生活するには？

6 インフォメーション

裏表紙 ちょっと出かけませんか？

- 市民講座・イベント・グルメ





豊田厚生病院
杉村 龍也

愛知国際病院
大村 浩之

名古屋記念病院
友松 裕子

愛知医科大学病院
森下 祐一

がんと共に生きる人を支える

がん治療の変化

大村 今日では当院のホスピスに集まっていたり、ありがとうございます。皆さまには病病連携(病院間の連携)で大変お世話になっていますが、こうしてゆっくりお会いするのは初めてのこと。がん治療を受ける患者さんやご家族のサポートをテーマに、お話できればと思います。さっそくですが、最近のがん治療についてお感じになっていることなどはありますか。

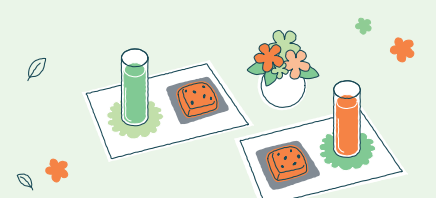
友松 変化でいえば、「がん遺伝子

パネル検査^{*1}」の一部が保険適用になり、「がんゲノム医療^{*2}」による治療の個別化が進むなど、治療の方向性が広がっていることです。また、がん診療連携拠点病院^{*3}では、AYA世代^{*4}のがん患者さんに向けて支援が高まっています。

森下 がん患者さんは圧倒的に高齢の方が多く、10代～30代のAYA世代にはあまり目が向けられてきませんでした。治療後に職場や学校に戻ってから苦労されるケースもあると

聞いています。そこで当院では約2年前、「AYAサポートチーム」を結成し、世代特有の悩みなどに多職種チームで対応しています。抗がん剤治療を受ける方には、精子凍結や卵子保存を紹介して「妊育性^{*5}」の温存治療へつなげたり、AYA患者さんのイベントに参加して「一人じゃない」「相談できる場所がある」というメッセージを伝える啓発活動を行ったりしています。

杉村 豊田厚生病院が力を入れているのは、職場復帰へのサポートです。



がん相談支援センターのスタッフが「両立支援コーディネーター」の講習を受け、両立支援において必要な知識を習得してもらい、働くAYA世代のさまざまな相談に乗っています。

大村 皆さま、時代の変化と共に新しいことにも取り組まれているんですね。愛知国際病院のホスピスでは約25年前の設立当初から「自宅のようなホスピス」を掲げ、最期まで生きる場所として患者さんに寄り添うことを大切にしています。

緩和医療へのタイミング

大村 皆さまの病院では、がん患者さんに放射線治療や薬剤療法などの積極的治療を提供されていますが、当ホスピスのような緩和医療へと移行するタイミングはどのように定めているのでしょうか。

杉村 明確な線引きは難しいですね。治療に限界が出たとき、副作用やデメリットが大きくなったときに医師が移行を提案しますが、それを聞いて落ち込まれる方も少なくありません。そんなお気持ちに相談員やスタッフが寄り添うことが大切です。

大村 どのようにサポートされている

のですか。

杉村 入院患者さんの場合は、主に緩和ケアチームが関わります。医師や看護師に加えて、薬剤師、臨床心理士、管理栄養士、社会福祉士など多職種でメンバー構成され、がん治療のスタート時からサポートしています。患者さんが辛いお気持ちを吐露されたときは臨床心理士が話を伺うなど、それぞれの職種の専門性を活かします。

森下 急性期病棟は入院期間が限られているので、退院後の行き先を早く決めなければなりません。患者さんが「どう過ごしたいか」についてじっくり考え、私たちが支援する余裕が十分に持てたらいいのですが。そういう意味でも診断時や外来通院時からのACP^{*6}はとても重要な取り組みだと思います。

友松 化学療法のために、何年も通院している患者さんも増えてきました。そういった患者さんが、再発し、積極的な治療が困難となり、「化学療法の継続は難しい」と、医療者から告げられると、見捨てられたように感じることもあるでしょうし、お辛いことだと思います。そこで、状況によっては、患者

さんだけでなく、ご家族の皆さんにも集まっていたり、主治医から病状説明をして、これからの療養の場をどうするかについて、一緒に考えることもあります。

大村 当ホスピスに入院相談にいらっしゃる方の8～9割はご家族で、入院前にご本人と直接お話することはあまりありません。ご本人が今後どこでどのように過ごしたいと思っておられるのかを伺ったうえで話し合いをしたいのですが、ご家族がご本人の意向を充分把握できていないことも少なくありません。私が「ご本人のお気持ちを一番尊重したい」とお伝えし、ご家族も「本人と相談してから入院を希望するかどうか決めたい」と言われたときには、電話などで後日お返事をいただくこともあります。

最期を安心して過ごせる場所

友松 この地域は、がん患者さんを受け入れる施設、緩和ケア病棟、ホスピス、ナーシングホームとさまざまな選択肢が揃っています。こうした社会的資源について、患者さんの窓口にいる自分たちがしっかりと内容を把握し、ご本人やご家族を支えるスキル

Profile



JA愛知厚生連
豊田厚生病院 地域医療福祉連携部
地域医療連携室 医療福祉相談 課長 杉村 龍也
1997年加茂病院に医療ソーシャルワーカーとして入職。
2007年ソーシャルワーカー主任。2008年加茂病院が豊田厚生病院へ名称変更。2020年医療福祉相談課課長。
●両立支援コーディネーター ●がん相談支援センターがん専門相談員
●社会福祉士



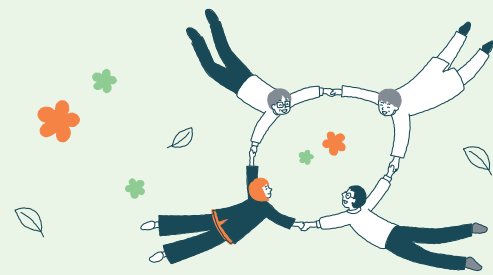
社会医療法人 名古屋記念財団
名古屋記念病院 医療社会事業相談
室長 友松 裕子
2004年から現職。2010年がん相談支援センター開設に伴い、専従相談員となる。
●社会福祉士 ●精神保健福祉士
●国立がん研究センター認定がん専門相談員
●日本人類遺伝学会認定GMRC



愛知医科大学病院 医療福祉相談部
主任 森下 祐一
2007年にMSWとして入職。2013年より現職。医療福祉相談部に所属し、現在は、がん相談支援センター専従相談員として勤務している。
●社会福祉士



医療法人財団愛泉会 愛知国際病院
ホスピス医長 大村 浩之
愛知県出身。1989年防衛医科大学校卒。日本緩和医療学会認定医。日本内科学会総合内科専門医。1997年実母が胃癌のため愛知国際病院で他界。2008年当院ホスピスに入職。



や知識を習得しなければと思っています。

森下 そうですね。経済面、生活面、ご家族の受け入れ状況など、何を優先して調整・支援していくべきか、しっかりと考えていかなければなりません。

大村 多くの選択肢があるなかで、当ホスピスを選んでいただくのはどのようなケースでしょうか。

杉村 当院のような総合病院併設の緩和ケア病棟は、痛みのコントロールを主な目的としているので、症状が落ち着けば退院となるケースもあります。その際、ご本人やご家族が「医師や看護師がいる、安心して過ごせる環境」を望まれたときは、こちらをお勧めしています。先ほど大村先生が言われたように、病院でありながら「自宅のようなホスピス」を掲げ、看取りまでされる場所は少ないので、連携先の一つとして大切な存在です。

森下 患者さんを連携先病院にご紹介するとき、必要な情報を文章で伝

えるのですが、ご家族との関係性など微妙なことはなかなか文章で伝えづらい。それでも、こちらのスタッフの方は事情をきちんと察し、ご紹介した患者さんをフォローして下さるので安心してます。

患者さんの「一番」を共に考える

大村 最後に、がん患者さんにご家族に寄り添い、支えていくために、取り組まれていることをお聞かせください。

森下 愛知医科大学病院では地域で解決できることをやっという、緩和ケアチームが主催して定期的に勉強会を開き、地域の医療機関、福祉関係者と連携を深めています。コロナ禍のオンライン勉強会では、愛知国際病院にも発表していただきました。今後は、また一同に集まって情報共有する場を増やしていきたいと考えています。

友松 名古屋記念病院は、ACPの一環として、「医療に関する私の心づも

り」をほぼ全ての入院患者さんにアンケート形式で書いていただいています。終末期になって、ACPを考えるのではなく、元気なうちに、「今後どうやって生きていきたいか」を、患者さんと継続的に話し合うことができると良いと思っています。

杉村 豊田厚生病院では、限られた入院期間のなかでも、患者さんが退院後の行き先や過ごし方を考えることができるよう、連携先病院と今まで以上にコミュニケーションを図りながら、退院支援に向けたきめ細やかなサポートをしていきたいと思っています。

大村 患者さんが何を望まれているのか、私たちはどうサポートしたらいいのか。皆さまとの信頼関係があるからこそ、こういった想いを共有できます。感謝しています。これからも患者さんにとってのベストを一緒に考えていきたいと思います。今日は貴重なお時間をありがとうございました。

※1 がん遺伝子パネル検査／がん細胞に起きている遺伝子の変化を調べ、がんの特徴を知る検査 ※2 がんゲノム医療／がん遺伝子パネル検査などの結果をもとに、一人ひとりの遺伝子の変化に応じた治療などを行う医療 ※3 がん診療連携拠点病院／質の高いがん医療が受けられるよう、地域ごとに国が指定した病院 ※4 AYA(アヤ)世代／Adolescent and Young Adult(思春期・若年成人)の頭文字をとったもの。15歳から39歳が当てはまる ※5 妊育性／「妊娠するための力」 ※6 ACP(Advance Care Planning)／愛称「人生会議」。人生の最終段階で受ける医療やケアなどについて、本人、家族などの身近な人、医療従事者などが事前に繰り返し話し合う取り組み



対談後のフリータイム

愛知国際病院 ホスピスを歩く

ホスピスは、最期まで患者さんの希望通りに生きられるよう全人的ケアを提供する場所。愛知国際病院のホスピスは、病院とは切り離された独立型病棟(20室)が特徴で、四季折々の花が咲く豊かな自然に包まれながら、落ち着いて静かな時間をゆったりと過ごします。



どのお部屋からも庭を眺めることができます



室内を静かに流れる音楽
数あるアルバムの中から、スタッフがセレクトしています。

美しい景色やBGMなど人の感性にも働きかける要素がたくさんありますね



ガーデンビューの全個室
どの部屋にも掃き出し窓と障子があり、明るい日差しを感じられます。



我が家のようなお部屋
キルティングのベッドカバーはボランティアの手作り。居心地のよさを第一に考えています。

ドアストッパーもお手製です



自然が息づく場所
園芸ボランティアが丁寧に手入れしている庭。

今日もお庭に咲くお花がきれいですね



ペットと面会もOK

一般的に病院はペットの立ち入りが禁止です。ここはペットも面会できるので、家族のように思っている患者さんにとって貴重な場所ですね。



自由にお過ごしいただく多目的室
寄贈いただいた絵画を展示するアートな空間。対談もここで行いました。

～座談会を終えて～

「自宅のようなホスピス」という理念がしっかり根付いています

「ここは最期まで生きる場所です」と大村先生がはっきりと言葉にされたのが印象的でした。理念がしっかりと根付いていることもすばらしい。地域の中に、このような場所があるのは素敵なことだと改めて感じました。今後にも密に連携しながら、患者さんと共に支えていければと思います。

杉村さん

患者さんを支えるパートナーとして背筋が伸びる思いです

ここをお訪ねするたび、穏やかな空気が流れているのを感じます。これまで多くの患者さんをご紹介してきましたが、今日いろいろとお話を伺い、これからは患者さんをしっかりとケアしていくために、パートナーとしてきちんと情報をお伝えできるよう頑張らなければ背筋が伸びる気がしました。

友松さん

過ごしやすい環境を追求していることが伝わりました

急性期病院では切り取られがちな「余白の部分」がここには豊かに息づいています。患者さんにとって何が大切なのか、患者さんが過ごしやすい環境とはどのようなものか。大村先生を始め、皆さまが追求していることが伝わってきました。ぜひ今後も密な連携をお願いしたいと改めて感じました。

森下さん

在宅なんでも相談



持病のある母の入浴が大変



母は持病があり体調が悪く、デイサービスに出かけることができません。お風呂好きの母ですが、自宅で入浴するのも大変です。

看護師が定期的にご自宅に訪問し、入浴介助を行うサービスがあります。心臓や肺などに持病がある方でも体調の確認しながら介助します。



訪問看護

お風呂に手すりを設置したり、シャワーチェアを用意したりすると安心です。私たちケアマネが住宅改修や購入費用の申請を行えるようサポートしています。



ケアマネ



もし寝たきりになったら、自宅での入浴介助は難しいですか？

訪問入浴サービスがあります。お部屋の中で横になったまま入浴できる専用の浴槽をご用意します。入浴前後の体調チェックもしますので、寝たきりの方や医療依存度が高い方でも安心してご利用いただけます。



ケアマネ



退院後も自宅で生活するには？



夫が大腿骨を骨折して入院中です。もうすぐ退院ですが、まだしっかり歩けず、自宅に戻ってからの心配です。

リハビリ目的の転院や、老人保健施設への入所を検討してみたいか教えてください。生活に必要な機能を強化するためにリハビリを受けることができます。



ケアマネ

持病がある方でも愛知国際病院なら、医学的管理をしながら約2カ月間リハビリに専念できます。



病院



老健の入所期間はどれくらいですか？

3～6カ月が目安です。「超強化型」の愛泉館は自宅に近い環境で生活リズムを整えながらリハビリを毎日提供しています。



老健

自宅に帰る日が決まる頃に、私たちケアマネがご自宅を訪問し、住環境を確認します。ご自宅での生活を安心して始められるよう、一緒に考えましょう。



ケアマネ

お問い合わせ 日進市東部地域包括支援センター ☎0561-74-1300 (月曜～土曜 8:30～17:30)

在宅を支えるワンポイントアドバイス 自宅での転倒を防ぐには？

手軽な対策編

加齢に伴って足腰の力が弱くなると、わずかな段差でも転びやすくなったり、いつもの場所でもつまづいてしまったり、ということがよくあります。実は家の中にも、あがりかまちや敷居など多くの段差があり、**転倒のリスクが潜んでいます**。転倒防止のため、ぜひ対策をしましょう。(老人保健施設 愛泉館 支援相談員 浅井 真希)

対策

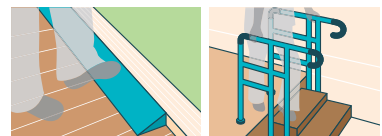
1 履物、敷物は避ける

スリッパなどの室内履きは転びやすいので要注意。カーペットや座布団なども転倒のリスクがあるので、できるだけ床に物は置かない。

対策

2 手すりやスロープを設置

段差対策として、タイヤスロープや設置タイプの手すりを活用する。※介護保険でレンタル可



さらに

もも上げ運動で筋力を高め、転びにくい体に！

- 片足を軽く上げ、ひざを胸の方へ引き寄せる
- 足を下ろす

※左右交互に10回ずつ行う



Information

インフォメーション

発熱外来、コロナワクチン接種を継続しています

発熱外来

受診をご希望の方は、外来受付時間内に直接窓口にお越しください。

外来受付時間 月曜～土曜
(午前 8:30～11:30
午後 14:00～17:00)

コロナワクチン接種

完全予約制で行っています。詳細は下記までお問い合わせください。

お問い合わせ ☎0561-73-7721
(電話予約) 月曜～土曜(8:30～17:30)

感染対策に 当院では5月以降も引き続き手指消毒やマスクの常時着用などの感染症対策にご協力をお願いしています。ご協力ください みなさまに安心してご利用いただくために、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

コロナワクチン接種
予約サイトはこちら



接種日 火・水・金曜日
(15:00～16:00～)

※オンライン予約には診察券番号が必要です。当院の受診歴のない方は、お電話でご予約ください。

愛知国際病院

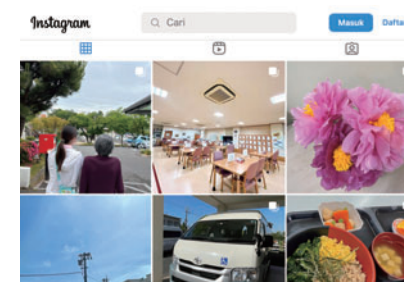
Instagramを始めました

老人保健施設愛泉館ではInstagramを開設しました。デイケアや入所などの様子を写真と共にお伝えしています！ぜひご覧ください。

愛泉館(@aisenkan) | Instagram



支援相談員 平 基己(ひらもとみ)



愛泉館

ホスピス

賛助会収支報告

お寄せいただいております賛助金は、ホスピスケアや環境の整備などに役立っています。コロナ禍でも、ボランティアを中心に庭の草花の充実やガーデンアイテムの買い替えなど、患者さんに季節の移ろいを感じていただける活動を行ってきました。また季節の行事では音楽療法士のコラボレーションを企画するなど、内容を充実させています。



2022年度収支報告

収入	寄付金	4,179,428
支出	研究研修費	108,860
	環境設備費	1,870,229
	消耗品費	873,299
	食料費	3,619
	広告宣伝費	133,961
	建築費補填・運営費	1,189,460
	支出合計	4,179,428

表紙のイラスト

楽しい「夏の1ページ」をめくる

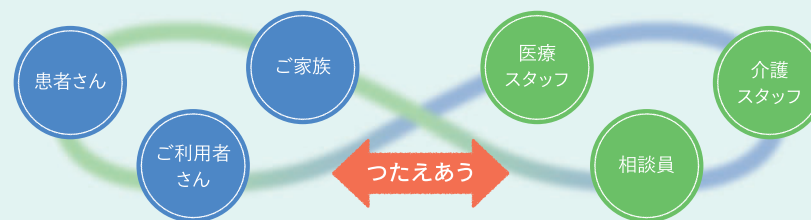
サンサンと照りつける太陽が、海水浴を満喫する楽しい「夏の1ページ」をめくる…。そんなファンタジックな世界を描いてくださった反町 友美佳さん(名古屋学芸大学 メディア造形学部2年)。普段はタブレットで描いたり、アクリル絵の具で描いたり表現方法は多彩。イラストのタッチもアニメ、少女コミック、アート系までバリエーション豊かで、将来のご活躍がとっも楽しみです。春号、夏号に続き、秋号と冬号の表紙も引き続き制作していただくので、どんな1ページになるのか、ぜひご期待ください。



編集こぼれ話 病院では面会制限が少しずつ緩和され、ホスピスではボランティアさんが患者さんと絵手紙や押し花などを制作する活動も戻りつつあります。お祭りやスポーツイベントも活気づいて、「あたりまえ」に感謝しながら楽しみたい夏が始まります。(諸石)

あなたと共に、パートナーシップ宣言

わたしたちは、患者さん・ご利用者さんやご家族の診療・介護への参加を推進しています。



市民講座

「おうち栄養講座」、大好評でした!

5月26日(金)に名古屋学芸大学管理栄養学部の岡田希和子先生をお招きして、「健康長寿を伸ばす、おうち栄養講座」を当院で開催しました。冷凍食品を使ったお手軽レシピ紹介やお料理番組のような調理動画を観る時間もあって、「ゼロから全て手作りすることにこだわらず、手軽に必要な栄養を摂ることができる方法を試してみてくださいね」という先生の言葉に、参加者からは「すこしほっとしました」「おすすめメニューを作ってみます!」という声をいただきました。



COMING SOON!



過去の様子

にしん観光まちづくり協会が主催する「まちミル博覧会」に出展します!

「ぐるぐるNISSHIN まちミル博覧会」とは、にしんに、行って、みて、体験して、共に学び・語り合い、お互いにつながりあえるにしんの魅力(ひと・もの・こと)を体感できるプログラムです。今年は10月1日(日)~11月30日(木)に市内各所で100以上のプログラムが開催予定。音楽や美容、グルメや学びなど幅広いジャンルをお手軽に体験してみませんか?

10/14(土) 愛知国際病院ホスピス「音楽療法士が語る、ホスピスの日常」

【時間】13:00~15:00 【場所】ホスピスラウンジ 【参加費】500円

老人保健施設愛泉館も出展します!

申込方法

右記QRコードから「まちミル博覧会」サイトにアクセスしてお申し込みください。
【申込期間】9月2日(土) ※インターネットのみの受付です。



2023年度のプログラムは8月下旬に公開予定

お問い合わせ

☎0561-73-7721(病院代表) ✉ f.moroishi@aisen-kai.jp(担当:諸石)

イベント

愛知牧場 | 愛知牧場ひまわり畑

夏の風物詩ひまわり畑。約4万本のひまわりが期間を通して順番に見ごろを迎えます。圧巻のひまわり畑にぜひ足をお運びください。公式Twitterもチェック!

【期間】7月中旬~9月中旬

※開園直後(8:30)や閉園間際(16:30)は比較的空いているためおすすめです!



お問い合わせ

☎0561-72-1300



AHI | AHI初めて始めて講座

アジア保健研修所(AHI)は愛知県日進市にあるNGO。「誰もが尊重され健康に暮らせる社会」をめざして行動する人を育てるために、学び合う場づくりを行っています。この講座では活動内容やボランティアについてご紹介します。

お問い合わせ

☎0561-73-1950 ✉ info@ahi-japan.jp

【住所】日進市米野木町南山987-30

【ホームページ】http://www.ahi-japan.jp

【Facebook】https://www.facebook.com/AHI.JP



【日時】毎月第4土曜日(10:00~12:00)

※要予約

【場所】AHI(駐車場あり)



ホームページ



Facebook

グルメ

Montbazou(モンバゾン)

名古屋市の有名ホテルで料理人として腕を磨いた店主が、渡仏修行を経て高山市の銘店「キュルノンチュエ」に勤務、2022年6月に自身のお店をオープンしました。燻製のおいしい香りが漂う店内で「白かびサラミ」などお気に入りの1品を探してみは?

【住所】日進市北新町狐塚29

【TEL】0561-74-3177

【営業時間】

10:00~18:00

(日・月曜定休)



白かびサラミ 1,210円

モンベリアルソーセージ 810円

詰め合わせは予算に応じて。



Instagram オンラインショップ

アンジュールルシッカ

天然酵母のパンとお菓子、カラダにやさしいランチとお弁当が自慢のお店です。一番人気の「お野菜たっぷりデリランチ」には、手作りのお惣菜がぎゅっと詰まっています。店内のオープンで焼いたパンは種類も豊富!デリやお弁当もテイクアウトができますよ。

【住所】日進市竹の山2-201

【TEL】0561-73-5551(駐車場6台)

【営業時間】8:00~18:00(火曜定休)



たっぷり野菜のデリランチ1,380円(税込)、その他サンドイッチランチなど。姉妹店「カフェルシッカ」(長久手市蟹原)があります。



Instagram

賛助会員募集のお知らせ

アメニティーの充実(施設環境、造園、園芸)、ホスピスでの諸行事、広報啓蒙活動、家族会の開催、ボランティアの活動、教育活動のために是非ご協力をお願いいたします。(ご入会いただいた方には年に4回広報誌をお送りいたします)下記の口座に会費をお振り込みください。

【①郵便局窓口利用】郵便振替口座 00890-5-3757

【②ATMおよびインターネット振込利用】ゆうちょ銀行(9900) 店番089 当座0003757

【①②口座名義】愛知国際病院ホスピス賛助会

【一口】1,000円(おいくらでも結構ですが、できましたら、5口以上でお願いいたします)



【医療法人財団 愛泉会】

- 愛知国際病院 ■老人保健施設 愛泉館 ■指定居宅介護支援事業所 愛泉館 ■日進市東部地域包括支援センター
- 訪問看護ステーション えまい ■住宅型有料老人ホーム カナン 【関連施設】アジア保健研修所(AHI)

〒470-0111 愛知県日進市米野木町南山987-31 Tel.0561-73-7721(代) Fax.0561-73-7728 http://aisen-kai.jp/

医療法人財団愛泉会 広報誌「みなみやま109号」発行日:2023年7月1日 発行人:井手宏 編集発行:法人だより委員会 編集長:近藤正嗣

※無断で複写、複製、転載することを禁じます。



お問い合わせ

【受付時間】月~土曜 8:30~17:30

医療
について

地域連携室

☎0561-73-9179

介護
について

日進市東部地域包括支援センター

☎0561-74-1300